

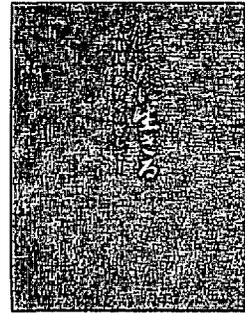
図書紹介

『佐渡に生きる』

——民主教育をめざして——

菊地一郎 A5判、364頁、2010年

吉田武雄



菊地さんは、1959年から96年まで新潟県立高校教員でした。37年のうち佐渡に29年勤め、前半の10年、定年まで後半11年の計21年間を、著者の母校である羽茂高校で「政治・経済」を教えた。

羽茂高校の「教育憲章」は1968年、安富良英校長の発案で著者が中心になって起草し、教職員の合議で制定されたもので次の三項からなります。

真理と平和を希求し、進取の気性にとんだ青年を育成する。勤労と責任を重んじ、心身ともに健康な青年を育成する。個人の尊厳を重んじ、民主社会建設に貢献する青年を育成

する。

校旗、校章、校歌などが作られた経緯と共に戦前の先覚者、本間瀬平村長が羽茂高校の前身を村の浄財をあてて作り中等教育を村にもたらす努力は教訓的です。

羽茂の人々が故郷をみる上で必読の書と言えます。菊地さんは今年度卒業生と在校生にもこの書を贈呈するとのことでした。

本書は次の四部構成です。Ⅰ 羽茂高校のことども、Ⅱ 高校教育の現場、Ⅲ 後退する民主教育、Ⅳ 戦争とわが生い立ちの記

Ⅱは、著者が創立会員でもあった、教育法学会（1970年創立）や全国

高等学校教育法研究会（1981年創立）に関わって書いた論考が主で

す。進級・原級留置きなど今日的問題の基本が明らかにされて、いわば「教育法」入門論文。

Ⅲは、教育基本法「改悪」に抗した論考で、『にいがたの教育情報』掲載のものが多いです。

Ⅳは、羽茂高校先報の本間慎さん（前フェリス女学院大学学長）が本書の帯で「愛に満ちた家族史や自分史は読者に感動を与えることでしょう」と推奨されています。

特に「父からの手紙」は、佐渡の農・漁民だった父が44年に、33歳で召集され、敗戦時にフィリピンで死ぬまでが、軍の検閲を逃れた便りや戦友がもたらした情報によって、57頁にわたり丹念に綴られています。民衆史の貴重な証言です。

頒価、送料込みで2000円、佐渡市羽茂大橋1665-1

菊地一郎または研究所に申し込みを。

（よしだ たけお・所員）